



感動・感謝・心のこもった 卒業式をありがとう！

3月13日(水)、晴天のもと卒業証書授与式が行われました。

3年生の凛とした姿、大きな返事、感動の歌声・どれをとっても「さすが、3年生」と思わせる態度でした。2年生はお世話になった先輩方に、お礼と感謝の気持ちをもって、臨むことができたことと思います。また、在校生代表として送辞を読み上げた吉田真彩さん。送辞作成から、読みの練習まで必死で練習していました。読みの練習は当日の朝まで行い、卒業式では緊張の中、思いのこもった送辞を読み上げました。

式前日は、2年生全員で役割分担し、会場準備を行いました。一人一人が自分の仕事を確実に行うとともに、自ら進んで仕事を見つけ本当によく働いてくれました。

「手の空いている人！」という、「はい！」と多くの人が手を上げ、素早く行動し、気持ちよく仕事をしてくれました。片付けも準備同様素早く行い、予定の時間よりも早く終わることができました。

誰もが、気持ちよく仕事ができただけの時間でした。素晴らしかったです。ありがとうございます。

さて、2年生も残り、約1週間となりました。残された時間の中で、自分はどんな人に成長して卒業していきたいのかを考え、進級の準備をしてほしいと思います。 2学年主任 今村恵美子



～昇降口にある県中生全員で作った幸せの木～

最後の学年集会！

3月14日(木)、2学年最後の集会を行いました。1年間の振り返りを各クラスから、全体を大槻くんに発表してもらいました。

課題が明確にできれば、どのようにして解決していけばよいかもわかります。後は自分で、自分の足で実行していただけます。

【2年1組】

指導をうけることが多い。その理由は・・・

- ① 当たり前のことができていないから
- ② もっとできるぞと期待されているから。

⇒ 先生方の期待を裏切らないように、信頼される1組していこう。

【2年2組】

大きく成長できた1年。合唱コンクールに向けた練習では、一致団結し、協力できるクラスだと思った。来年は、授業開始3分前に着席し学習する習慣を身につけ、学力学年NO1にしていきたい。

【2年3組】

給食の残飯ゼロの3組。感謝の気持ちを持った人が多い。しかし、朝の学活が遅い・授業開始のルーティーンができていないなど、まだまだ課題もある。来年は、全員で課題を自覚し、取り組んでいきたい。

【2年生全体として】

元気なあいさつ学校 NO 1。何事にも一生懸命取り組む人が多い。ただ、卒業生の先輩方は気配りのできる人が多かった。自分たちも先輩に追いつけ、追い越せでさらに成長していきたい。



～学年集会の様子～

☆春休みの課題☆



- 自主学习 毎日1ページ
- 基礎の定着(小学校～中2の内容が1冊になっているもの) **4月8日(月)始業式提出**

4月11日(木)ベネッセ学カテスト

4月18日(木)全国学カテスト

が行われます。2年生までの内容が出題されます。春休みに十分な復習を!

☆春休みの生活について☆

○「充実した春休みを過ごすために」のプリントをご覧ください。
春休みは、3年生になるための大事な準備の期間です。
気をひきして生活してほしいと思います。

【修学旅行情報】



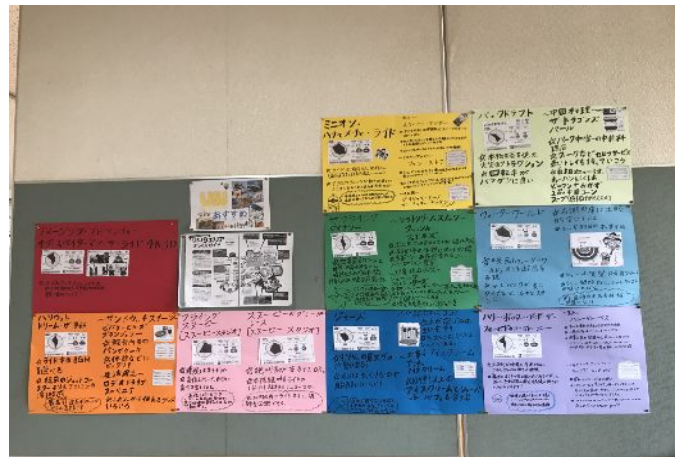
～修学旅行に向けて学年集会～



実行委員・生活班・USJ班・FW班から必要な事柄を説明しました。

メモを取りながら聞いている人が多く、真剣な態度が見えました。

～USJ班から、見どころ案内ポスター～



♥今週の行事予定♥

	トナリ	○行事予定 ★提出・持参物
18月	英12 13	○月1～6 *2年生5・6校時 AED 講習会
19火	理13	○火1～6
20水	社13	○水1～6
21木		春分の日
22金		○修了式・美化作業・学活 *部活動・給食なし *完全下校 11:50

☆ 3月22日(金)の日程 ☆

- 8:10～8:15 朝の学活
- 8:20～ 体育館入場
- 8:25～8:55 修了式
- 9:10～10:25 美化作業
- 10:35～11:20 学活
- 11:20～ 教室移動
- 11:50 完全下校



「正念場をこえる」

..今、申し上げたようにね。辛い苦しみ、あるいは悲しいってような体験を、買ってでもしない限り、人間ってのはね、本当に正念場に強い人間はできあがらないってことですね。その正念場に強い人間だけがね、人生の中で本当にやったって言える実感が味わえる仕事ができるってことですよ、これは。どんな仕事だってそうですよ、何もバレーボールの話じゃないですよ、これは。

あなた方の人生の中で、学問をどれだけやったとか、学校をどこ出たとかという問題じゃないんですね、

人生の実感、オレは生きててよかったとかね、あるいは、やったんだという実感ってのはね、正念場をこえる人間とこえない人間とで分かれちゃうわけですよ、その正念場をこえられる人間になるということが、人生の中ですばらしく生きられるか、ついでに生きて人生が終わったという差になる。

あなた方は、ぜひにすばらしい人生を送ってもらいたい。本当にそう思いますよ。思うけれども、それは私たちは手助けはできないんです。先生もできないんです。先輩もできないんです。正念場をこえる瞬間は、自分でしかこえることができないんですからね。

ミュンヘンオリンピックの、あのブルガリアとの苦しい場面で、監督の私がメンバーチェンジをした、作戦タイムをとって指示を与えた、せいぜいできるのは、それだけのことですよ。あとはベンチに座って、あの選手たちが自分の力で、自力でもって、あのブルガリアをねじ伏せて、逆転勝ちしてくれるのを、私はベンチで待っているだけだったからね。指導者とか監督とか教育者っていうのは、そういうもんなんです。本当に自分の力でもって、はいずり回っていける人間をつくる、はい上がっていける人間をつくるまでが仕事なんです。

はいずり上がる時には、また、手助けしてくれると思ったら大間違い。どんな親友でもダメなんです。これはもう、一人で、自分でもって、そこを乗り切る以外に方法はない。これが人生です。

だからこそ言うんです。一人一人がそれを自分で、実績でもって、一つ一つ自信をもって、オレはやれそうだっていう実績づくりをしなきゃいけないっていうのは、そこです。

(元全日本男子バレーボール監督松平康隆氏の講演会「負けてたまるか」)

ミュンヘンで開催された。

*男子バレーボールチームは、金メダルに輝く。準決勝では強豪ブルガリアと対戦。セットカウント1-2で

第4セットを迎え、マッチポイントまで取られるが、そこから大逆転劇を演じた。この試合は人々の記憶に長く残り、現在でも数年に一度、名勝負として放送されるほどである。

正念場をこえる瞬間は、自分でしかこえることができない

一人一人がそれを自分で、実績でもって、一つ一つ自信をもって、オレはやれそうだっていう実績づくりをしなきゃいけない。

やはり、その時になってからできるものではない。毎日の小さな積み重ねがとても大事。いま、ま☆ナビを毎日やっています。それをどれだけ真剣にやっているか、これらの取り組みが一本の線になって、受験勉強にもつながっていきます。毎日の生活の中で、「自分はやれそうだ」という自信や実績を積み重ねていきたいものですね。



*ミュンヘンオリンピック.. 1972年当時西ドイツ・ミ